

行動する・走る 「うつくしま汗かき人」 長尾トモ子の日記から

インターネットで「長尾トモ子」と検索すればブログ(日記)がご覧になれます。毎日更新中!



福島県議会議員
県議会広報委員長
商労文教副委員長
長尾トモ子

県政報告 ともこ だより

皆様のご意見、ご要望を
お気軽にお寄せ下さい

〒963-8041福島県郡山市富田町前川原22 TEL:024-951-0341 FAX:024-951-0361
メールアドレス tomokon@circus.ocn.ne.jp (ホームページもあります)

ごあいさつ ～福島復興に向け前進しよう～

昨年3.11からそれぞれが無我夢中で走り抜いて来た1年が過ぎました。私達に少しずつ前を向いて歩こうとする覚悟と決意が出来てきた今年からは、福島県民の底力が試されています。

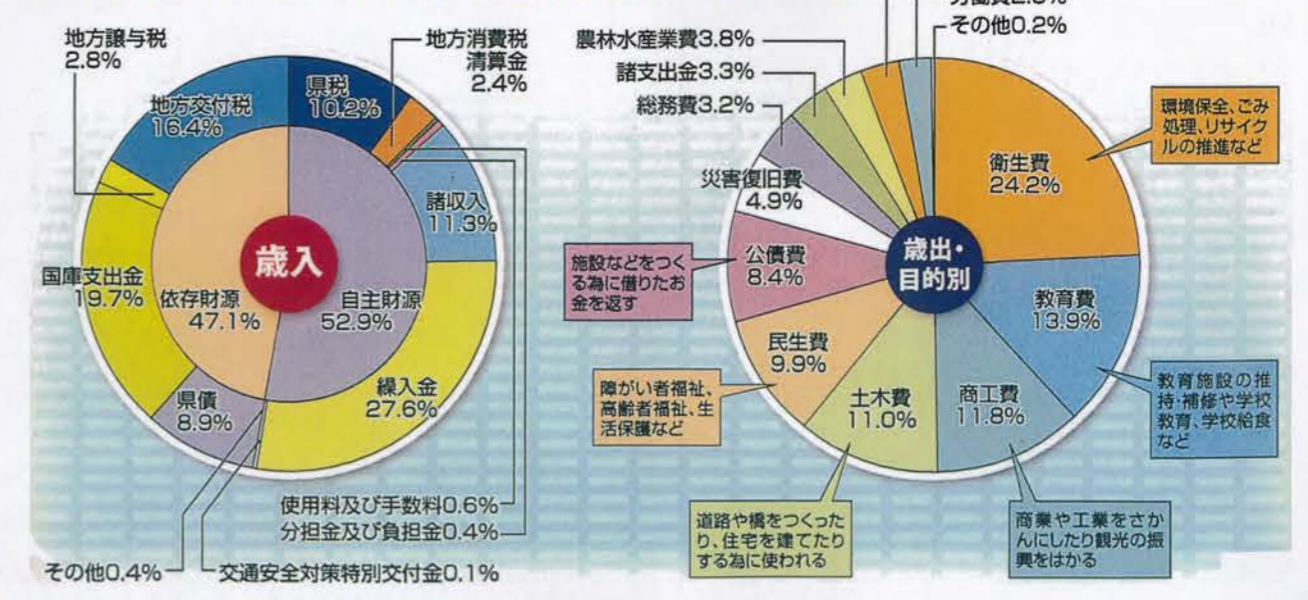
まず今、福島はどんな状況にあるのか、それを解決するために私達が自ら出来る事は何か！ 特に「放射能被害とどのように向き合い克服し元気な福島を取り戻せるのか」「産業振興、雇用創出をし地域活性化」「教育を通し他県に負けないすばらしい人材の育成」などに取り組んでいかなければなりません。苦しい分だけやさしくなれた、苦しい分だけ頑張れます。これから皆さんと共に福島の輝きを世界に発信していきましょう。長尾トモ子も明るい未来を信じ全力疾走で頑張っています。



10月から18歳以下の医療費無料化が実現します!!

平成24年度県予算額 1兆5,764億円(うち震災・原発事故対応分は、7,255億円)

平成24年度一般会計当初予算の内訳



2月県議会定例質問の内容と当局の答弁についてお知らせ致します。



2月県議会登壇

福島の未来を見据えた若者育成について

問 県内の高校生など若者の意見を県政に取り入れていくべきと思うが、知事の考えを尋ねたい。

答 福島の高校生が厳しい環境の中でもひたむきに努力を重ね、心を一にして夢の実現に向かう姿は、復興への取り組みと相通じる。震災からの復興に向けて高校生アンケート調査実施など若者の意見を聴く場を設け県政に反映させる。 <知事>



安積黎明高校卒業式

子どもの未来を守る大人の責務について

問 未測定になっている4才未満の子供の内部被ばく検査方法を考えるべき。

答 年齢の低い子の身体的リスクを把握するため、測定器の開発や測定方法、評価の手法を検討している。(保健福祉部長)

問 放射能被害で外遊び出来ない子ども達のため、屋内遊び場を増やすべき。

答 市町村や民間団体が行う屋内遊び場整備を支援する。(子育て支援担当理事)

問 放射能被害低減化のため、低線量地域(会津地方などに)児童生徒が集団生活や学習出来る施設を作るべき。

答 学校で行う体験活動に補助。来年度は年間通し支援する。又自然の家などの宿泊体験や県内外の各種団体による支援事業の活用もしていく。(教育長)

問 ふくしまっ子体験活動応援事業の内容を充実させ長期事業にすべき。

答 来年度は宿泊を伴う活動に補助、それ以降は事業を取り巻く状況を見ながら検討する。(教育長)

問 食の安全のため保育所・幼稚園に食品検査機器を設置すべき。

答 機器の導入を希望する市町村に全額財政措置するよう国に要望している。(子育て支援担当理事)

問 県内の震災孤児及び遺児に対し経済的支援をすべき。

答 本県独自の基準により義援金配分、東日本大震災被災児童支援基金を活用し大学等卒業まで毎月の定額金と、入学、卒業時の一時金給付を行う。(子育て支援担当理事)

県民の健康管理について

問 内部被ばく測定のためのホールボディカウンターを全県民に行う計画について尋ねたい。

答 18才以下の子どもや妊婦中心に計画的避難区域や避難指示区域等から着手し、浜通り-県北-県中に拡大。車両搭載機器で学校を巡回する。(保健福祉部長)

問 今後ホールボディカウンターでの検査結果をどのように管理するのか。

答 県民健康管理調査と一体的にデータを保存し一元的に管理していく。(保健福祉部長)

問 県民健康基本調査の回収率を上げるために県はどのように取り組むのか。

答 県や市町村の広報紙・メディア等を活用し広く周知、市町村と連携し生活支援相談員等の各事業所訪問や都市部で書き方説明会などを行う。(保健福祉部長)

問 基本調査の内容や配布方法について県は今後どのように結果を生かしていくのか。

答 外部被ばく推計結果を知らせると共にその他の調査、検査個人ごとに管理し県民一人一人の健康を長期にわたって見守る。(保健福祉部長)

問 食品の放射能検査の正しい測定、結果の説明できる人材育成について県はどのように取り組んでいくのか。

答 市町村担当職員や操作員を対象に研修を行い、今まで4回実施し300人が受講した。正確な操作、分析のためマニュアル作成・配布。分析専門家による巡回指導などをして人材育成をする。(生活環境部長)

問 細やかなメッシュで身近な生活空間の公園や公共施設等を測定し速やかに公表すべき。

答 京都大学と連携、自動車サーベイシステム、さらなる小型化し、夏の実用化にむけて開発と実証を進めている。(生活環境部長)



被災者交流の場「絆カフェ富岡」

雪の日の向館地区町民除染

ソリタクラブ絆カフェへ寄付

幼児を取り巻く現状について

問 原発事故により放射能被害を受けている私立幼稚園の園児減少について県はどう支援していくのか。

答 運営費補助金、震災前の園児数を考慮し算定。修学等支援基金を活用し保育料納付金の減収額を対象に補助する。(総務部長)

問 2015年に向け幼保一体化の総合子ども園移行へ県の支援について尋ねたい。

答 保育と幼児教育が抱える課題を共有し合ったり交流会などを開催する。(子育て支援担当理事)

被災者支援について

問 「新しい公共」の地域活動モデル事業の採択状況と来年度の取り組みについて尋ねたい。

答 NPOとの多様な主体の連携し、まちなかサロンや子どもの日帰り外遊びを応援する。新年度は県外活動や補助上限引上げを行う。(文化スポーツ局長)

問 被災者に対しての絆づくり応援事業について尋ねたい。

答 被災者の立場に立った生活支援をするため事業の趣旨、支援の基本、基礎知識などの研修を行う。(商工労働部長)

問 県外避難者の生活支援等を行っているNPO、他県との連携についてどのようにしていくのか。

答 支援物資の提供、生活相談、交流の場づくり。今後全国組織と連携し課題を共有していく。(生活環境部長)



被災地浪江小へヨシケイさんのボランティア寄付



ライオンズクラブから(34園)鉄棒、トランポリン

3.11復興の誓いシンポジウム



東日本大震災を後世に伝える取り組みについて

問 災害を後世に伝えるため、記録となる資料の収集、保存・保管について県はどのようにしていくのか。

答 写真、図書の収集保存と共に体験等の聞き取りなどの内容を映像化、災害関係五千点、体験映像100件となり歴史資料館、図書館を利用し収集、保存保管する。(文化スポーツ局長)

福島の今を戦略的にアピールする事について

問 福島をアピールするために東京事務所の機能をより発揮すべき。

答 新年度は農産物の安全性PRのためふくしまの恵み発信、観光復興キャンペーンなど行う。(総務部長)

問 福島をアピールするために若者の力を活用すべき

答 新年度の戦略的情報発信事業でフェイスブックなどのソーシャルメディアなど、学生等による情報発信事業を行う。(直轄理事兼安全管理監)



郡山駅前の「福魂祭」(海老根和紙灯ると線量計)